



# 春南中だより

春日部市立春日部南中学校 令和4年度 第9号 令和5年1月10日発行

## 前へ

学 校 長

おだやかな初春をご家族でお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、本校教育活動にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひします。

秋の間に生まれ、冬を越す木々の芽のことを「冬芽」というそうです。長い冬を梢の先で身をじっと固くして春を待ち続けています。この冬芽は見た目には変化がなくても今月下旬から2月になると、和らぎ出す陽の光により若葉の季節に向けての胎動が始まっているそうです。

さて、女流棋士史上最多となる21のタイトルを持つ謝 依旻（シェイ イミン）氏があるインタビューに答えていた言葉があります。「定石」と「奇策」というテーマで、囲碁の世界では「定石」通りに打っていたら、必ず負けてしまうと云っています。「定石」とは、さしずめ教科書、「奇策」はその応用力だと例えられていました。何十万もの「定石」があるのだそうですが、不用意なミスから本因坊を失ったことがあるのだそうです。そのときに彼女がしたことは、バンジージャンプをして悔しい気持ちを吹っ切ったそうです。棋士とバンジージャンプ、まさに「奇策」です。

長い人生の中にはつまずきや失敗は多くあります。まして、中学生の時期は好奇心も旺盛だったり、正義感が強かったりする反面、衝撃的になったり、自己嫌悪に陥ったりすることもよくあることです。過ちやつまずきを繰り返しながら成長するのが人間だと言っていいかもしれません。わからないことが「わからない」と自然に言え、それをみんなで考えたり、過ちやつまずきを反省したり、許し合ったりするところに成長があるのだと思います。過ちやつまずきがあったときに素直にそれを認め、今後の在り方を真剣に考えることが、大きなステップアップに繋がります。

相田みつを氏の詩に「つまずいたおかげで」というものがあります。

つまずいたりころんだりしたおかげで  
物事を深く考えるようになりました。  
あやまちや失敗を繰り返したおかげで  
少しずつだが  
人のやることを暖かい眼で  
見られるようになりました。



プロフェッショナルと呼ばれる方々でさえ、必ずつまずいています。そこから、必ず抜け出すための思いの変化があると思っています。つまずいても転んでも面倒くさがらず、前向きに胸をはって歩いていきたいものです。太陽の光に向かって、子どもたちの想いも初春の中で息づいています。

【初日の出と桜の冬芽】

